

水管理を徹底して有効茎数の確保に努めましょう。 ＜雑草が残っている水田は早急に除草剤の追加防除を!!＞

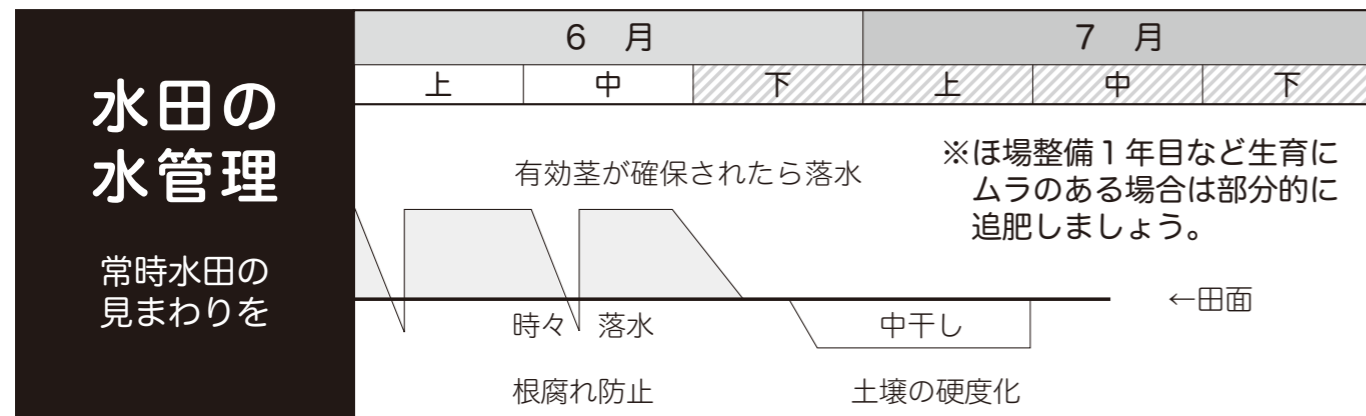
管内の田植は、天候にも恵まれ5月下旬まで概ね順調に完了しておりますが、雑草の発生も例年より早かった影響もあり、雑草が残っている圃場もあります。

梅雨時期に入りますが、稲の生育状況を確認して水管理の徹底に努めましょう。また、圃場に「残苗」を放置すると「いもち病」の発生源となり周辺に感染する可能性がありますので、早急に処分するようにして下さい。

◎有効茎の確保まで水管理を徹底しましょう!!

- 天気が良好な場合・・・2～3cm程度
- 低温や曇天の場合・・・深水5～6cm程度

※生わらや未熟たい肥をすき込んだ圃場では、ガスが発生して生育を阻害することがありますのでその時は一時落水して土壌への酸素供給とガス抜きを行うようにしましょう。



◎中干しは、有効茎数を確保してから実施しましょう!!

中干しは、稲の根に酸素を送ることにより根に活力を高める効果がありますので、有効茎数が20～25本程度確保したら早急に中干しを行い7日～10日間程度実施するようにしましょう。

- 中干しの程度は？ → 田面に小さな亀裂が入る程度が良い。
→ 田面に足跡が付く程度の固さとする。
→ 排水不良の水田は、溝切が有効である。
- 中干し終了後は？ → 急に灌水状態にしないで走水程度とし、徐々に灌水状態にする。

※転作跡地や復元田等では、倒伏しないよう強めの中干しを実施しましょう。

◎水田に雑草は残っていませんか？＜後期除草剤の散布時期です。＞

散布時期の遅れや抵抗性雑草の多発等により、水田に雑草が残っている場合は稲の生育に影響を及ぼしますので、早めに追加防除を実施しましょう。

薬 剤 名	10a当り使用量	主 な 対 象 雑 草
フォローアップ1キロ粒剤	1kg	移植後20日～ノビエ5葉期。(落水不要) (オモダカ・クログワイ等 早めに散布)
バサグラン粒剤 (落水して散布)	3～4kg	ホタルイ・シズイ・オモダカ等(草丈は10～15cm以下)。落水散布後は少なくとも3日間は入水しないでそのままの状態に保つこと。 (ノビエには効果ありません。)
クリンチャーバスME液剤 (落水して散布)	1,000ml (水70-100ℓ)	移植後15日～ノビエ5葉期。広葉雑草5～15cm以下。落水した状態で雑草に噴霧機等で直接散布し3日以上は入水しないこと。

※散布時期が遅れたり、雨天が続くことにより、除草効果も劣りますので、適期散布に努めましょう。

◎つなぎ肥(追肥)の施用

※ほ場整備の1年目の作付けや、昨年休耕した水田の施肥について

基肥を加減し施用した圃場や無肥料の圃場で生育状況に差が出てきております。葉色が淡く茎数確保が少ない圃場では追肥の施用を行ってください。

●NK化成C68号を窒素成分で1kg程度施用(現物で6～7kg/10a)

※NK化成C68号はシートパック等に入れ水口からの流し込みも可能です。
※判断が難しい場合は圃場へ出向きますのでJAへご連絡下さい。

⚠️ 畦畔等の除草剤散布にあたって(重要)

畦畔や農道等へ除草剤を散布する際に対象雑草以外の作物へ薬剤がドリフト(飛散)する場合があります。

散布前に立地、風(風向と強弱)を考え、ドリフト(飛散)にも配慮した散布計画を立ててから作業をしてください。

また、散布する際は早朝や夕方の風のない時間帯を選ぶよう心がけましょう!

なお、薬剤の使用にあたってはラベルを一読し、使用方法等を確認の上、散布してください。



◎追肥の施用について

●**幼穂形成期の追肥は**…穂の粒数を確保するための効果があります。

散布時期…7月上～中旬に施用。

- 通常栽培の場合は、出穂前20日～25日前頃に窒素成分で「1kg」の追肥が目安です。
ひとめぼれ…窒素成分で「1kg」。まなむすめ…窒素成分で「1～2kg」を基本に施用。
ササニシキ…幼穂形成期には原則行わない。

●**減数分裂期の追肥は**…穂の粒数減少防止、千重粒の増加に効果があります。

散布時期…7月中～下旬に施用。

- 通常栽培の場合は、出穂前10日～15日前頃が目安です。
ひとめぼれ…窒素成分で「1kg」。ササニシキ…窒素成分で「1～1.5kg」。

●**追肥の肥料**…NK化成C68号の場合。現物量6～7kg/10a＝窒素成分「約1kg」基準に施用。

※**環境保全米栽培は、基肥の化学窒素施用量を必ず確認してから追肥を実施すること。**

〈例〉基肥に、「まーくん有機209」を40kg施肥で化学窒素の窒素成分が「**2.4kg**」となりますので、追肥の化学窒素の窒素成分は「**1kg**」以下であれば施用が可能です。(NK化成の窒素成分C68号であれば現物量5kg以内)

◎いもち病の防除について(直播栽培は早めに防除しましょう。)

●**箱処理剤を使用した場合**

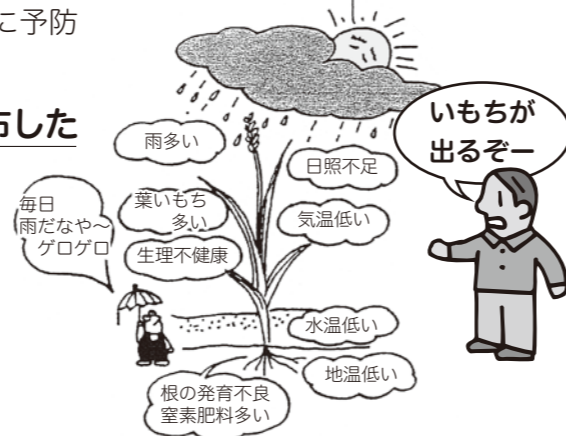
箱処理剤は長期残効型の薬剤ですが、7月中～下旬にかけて薬効が低下してきますので、出穂予想日から10日前までに予防散布するようにしましょう。

※**箱処理剤を使用せず、本田でオリゼメート剤を散布した場合は、必ずコラトップ剤を散布して下さい。**

＜いずれか1剤を散布する＞ 7月15～20日頃散布
コラトップ1キロ粒剤12 (10a当り 1～1.5kg)
コラトップジャンボ (10a当り 500～650g)

(注) 環境保全米はコラトップ剤を使用できませんので、ご注意ください。

いもち病の発生条件は？



◎倒伏軽減剤の散布について(ほ場整備の農道・水路跡など)

葉色が他の水田より濃く、畝間が重なり、葉が垂れているような圃場では、倒伏が懸念されますので倒伏軽減剤の使用を検討して下さい。

薬剤名	使用目的	使用量	使用時期	使用方法
ロミカ粒剤	節間短縮による倒伏軽減	2～3kg/10a	出穂25～10日前まで	湛水散布
スマレクト粒剤		2～3kg/10a	出穂7～20日前	
ビビフル粉剤DL		3～4kg/10a	出穂10～5日前	散布

《平成27年産『環境保全米』展示圃場施肥体系》

地区	圃場所在地	面積	品種	基肥 (10a当たりの肥料成分)					田植日	除草剤 ポデーガード	
				肥料名	施用量	N (kg)	(うち化学成分)	P			K
閑上	牛野字松浦	35a	ひとめぼれ	有機一発209	40kg	4.8	2.4	4.0	3.6	5月18日	1キロ粒剤
下増田	下野郷大谷地	30a	東北194号	有機一発209	30kg	3.6	1.8	3.0	2.7	5月7日	1キロ粒剤
館腰	植松字宮下	30a	つや姫	まーくん有機209	45kg	5.4	2.7	4.5	4.1	5月20日	ジャンボ
愛島	北目字田小屋	100a	つや姫	らくだ君有機一発499	40kg	5.6	3.3	3.6	3.6	5月24日	ジャンボ
玉浦	寺島字瀬崎	49a	ひとめぼれ	らくだ君有機一発499	40kg	5.6	3.3	3.6	3.6	5月15日	1キロ粒剤

- ・箱処理剤は「デジタルメガフレア箱粒剤」
- ・東北194号は、試作として本年初めての取り組みです。尚、施肥体系はササニシキと同等。